

みやぎ高校生フォーラムで本校の地域貢献を紹介

宮城県内のすべての高校が集まり、それぞれの学校が行っている地域貢献を発表する「みやぎ高校生フォーラム - 私たちの志と地域貢献 -」が2月10日、宮城県庁講堂で開催されました。地域貢献活動発表、意見発表の他、みやぎ総文と南東北インターハイの報告とパネルディスカッションが行われ、「地域貢献活動を通して自分の志を形にしてゆく」高校生が活発に意見交換しました。本校はポスターセッションに参加し、「海岸林再生プロジェクト」や「なとり閑上追悼イベント」、「東北みやぎ復興マラソン」などボランティアへの取組や、「防災ワークショップ」などの地域と連携した事業を紹介しました。

名取北高はこれからも人材の育成をとおして地域に貢献して参ります。



来庁した皆様に本校の取組をポスターセッションで説明

春に向けての強化練習会始まる

名取北高校から4人の高体連・強化指定選手

高体連各専門部は、指定選手の強化のため、練習会を行っており、陸上競技専門部では男子5000m競歩の大内奎吾さん(2年)と宮崎颯跳さん(1年)の2名が選出され、2月3日から開催された強化合宿練習会に参加しました。



またバスケットボール専門部では、女子で古山歩佳さん(2年)と内山夕稀さん(2年)が選出され、2月12日から開催された強化指定選手練習会に参加しました。

高校総合体育大会での活躍、東北大会、インターハイ、国体への出場へと繋がるよう、更なるスキルアップが楽しみです。



1月の県新人大会にて

県強化合宿に参加して 大内奎吾

(陸上競技部・2年・村田二中出身)

強化合宿では、普段の練習では得ることのできないたくさんの技術をコーチから学び、とても良い経験になりました。もう少しで最後の高校総体になってしまいますが、インターハイで活躍する選手になれるよう、今回学んだことを生かして、普段の練習を頑張っていきたいと思います。



県合宿を終えて 宮崎颯跳

(陸上競技部・1年・富沢中出身)

昨年の県新人大会で入賞することができ、今回の強化合宿に選んでいただきました。合宿では、自分に何が足りないかを発見することができました。県総体では今回の合宿参加メンバーと競うこととなりますが、自己ベストを出し、県4位入賞、東北大会出場を目指し頑張ります。



チームに変化をもたらす

古山歩佳 (女子バスケットボール部・2年・丸森中出身)

県新人大会では自分たちのバスケットができず、とても悔しい結果で終わってしまいました。自分たちのモットーである「走攻撃」をより極めるために練習を改善し、走るメニュー、個人スキルを上げるメニューを中心に取り組んでいます。県強化指定選手に選出されたことで、より自分自身のスキルを磨き、練習会で学んだことを持ち帰りチームに変化を与えて、最後の県総体では今までとは違う私たちのバスケットを見せられるよう頑張ります。



日々の練習での発見を

内山夕稀 (女子バスケットボール部・2年・坂元中出身)

県新人大会では、自分もチームも課題が多く見つかりました。県の強化練習会では、自分のできることを全力で頑張り、周りの参加者からもたくさん学びたいと思います。総体がどんどん近づいてきているので、日々の練習で、自分に足りないことについて改善、強化し、最後に悔いが残らないよう頑張りたいです。



宮城の地元紙「河北新報」。今回は、名取岩沼の二市13万人の生活と日々向き合い続けている岩沼支局長の桜田賢一様にお話を伺いました。

生きていることが仕事

河北新報社 岩沼支局長 桜田賢一



●自分がオピニオンリーダーという自覚

記事に自分の主張を入れないのは大原則。でも、どこかに自分が出てしまう。天下国家を大上段に構えて話す人もいますが、キャベツ一つの値段を知らない人が国の予算を論じても心には響かない。市民生活を肌感覚で分らなければ、所詮高い所から喋っているんでしょ、と伝わってしまいます。そういう記者にはならないよう日々気をつけています。新聞は基本、弱い者の味方で、「困っている人がいます」と書くことが多い。書くことでピンチを救うこともあり、やはりダイレクトな反応にはやり甲斐を感じます。

●ヒリヒリするような刺激的な日常

名刺一枚で誰とでも対等に喋り、毎日違う人と会う。普通の人では得られない体験を日々できるのは記者の魅力です。支局は市民の日常に密着していますから、例えばスーパーで議会の議長さんが孫を連れてくる時に会ったりすると、仮面が取れ、以前よりも更にと人として向き合うことができます。入社した頃、先輩から「生きていることが仕事」と言われましたが、「目の前を通り過ぎるすべてが取材対象」なんです。プライベートでスーパーに行っても、そこきつかけは転がっているんです。

●うすっぺらな大人にはならないで欲しい

取材などで何か聞く時、「オレはいいんで」と答える人がいますが、10年後、働く中心になった時の自分や社会のことを考えて欲しい。自分の意見を持つためには、世の中にアンテナを張り、自分で思索をまとめることが必要です。ケータイとゲーム、バラエティー番組だけでは人は育たない。文字を追いかけることができないと、いろんな論理が頭の中で体系立っていかないと、思います。

●楽しく仕事をすること

どんな仕事にもそれぞれ大変なことはあります。忙しい毎日でも、楽しく仕事をすることが特ダネを取るし、いい原稿を書き、いい写真を撮ります。不平不満を言っても先が見えてしまう。いろんな人と喋って打ち解ける力は、どんな仕事にも必要です。高校生には、引出しのたくさんある大人になって欲しい。「若い頃こんな馬鹿やりました」でも構わないから、今しかできないこと、例えば部活動なども懸命にやっつて、高校最後の試合に負けた時にポロポロと泣くくらい打ち込むとか、勉強だけでは人としての幅は生まれなれないと思います。北高生の皆さんにもそんな力が育つよう、応援しています。

吹奏楽部 名取プラスバンドコンサートvol. 21に出演

吹奏楽部 部長 山田遥香 (2年・大河原中出身)

1月28日に名取市文化会館で開催されたこのコンサートは、年に一度、市内の吹奏楽部の皆さんが集まり、音楽の素晴らしさを発表し合う素敵な演奏会です。今年は名取交響吹奏楽団、増田中、名取一中、名取二中、みどり台中と共に参加しました。私たちはいつも応援し支えてくださっている方々に感謝の気持ちを届けられるよう、私たちにしかできないマーチングを取り入れた演奏をしました。最後には全体合唱があり、「翼をください」「名取市民歌」を思いをひとつに全員で歌いました。これからも音楽とパフォーマンスで多くの人に笑顔や感動を届け、地域の方々から愛される北高吹奏楽部になれるよう頑張ります。5月20日に開催する定期演奏会にもぜひ足をお運びください。



1 学年進路ガイダンス開催

1月23日、大学・短大、専門学校等の先生方においていただき21講座を開講。興味・関心ある分野の講義を受講しました。

● 野村良斗 (1年・亘理中出身) 教育系の講義では、「教える人は普通でいい。どれだけ意欲を高められるかによって生徒は変わる」ということが印象に残りました。看護系の講義では「看護師の仕事は病院だけでなく、訪問看護や教育機関など多岐にわたり、患者さんへの小さな声掛けが何よりも大切」という内容を紹介いただきました。プロのお話は凄いと、私も自分のこれからの進路に対し、様々なことを調べてゆきたいと思いました。



● 益山結衣 (1年・逢隈中出身) 教育系と保育系の2講座を受講しました。保育士も教員も「未来を創る仕事」、「人は欠点があっても心配することなく、補う努力があればいい」というお話が印象に残りました。

また、命を預かる使命感や子どもの変化を見逃さない観察力などが大切だと感じました。日頃から新聞やニュースに触れ、興味のある分野に関心を持ち、考えを深めてゆきたいと思います。



【宮城県名取北高等学校】

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田103

TEL 022-382-1261 FAX 022-384-8976

HP <http://natorikita.myswan.ne.jp>

mail chief@natorikita.myswan.ne.jp

(担当) 教頭・町田尚彦



(学校だよりのご感想をお寄せください)